

2023 年度前期
「授業改善のための学生アンケート」 結果報告書

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

目 次

1. 2023 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要	
① 目的	1
② 実施概要	1
③ 実施方法	1
④ 設問の内容	2
⑤ 実施科目数	3
2. 2023 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 集計結果	
① 学部	4
② 大学院	9
3. 2023 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 みなさんの声に応えて	
① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ	14
② FD・SD 推進委員会からのメッセージ	16
4. 2023 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 顕彰授業	
① 顕彰授業	17
② 顕彰授業における工夫	18

1. 2023 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要

① 目的

- 1) さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。あくまで教員の自発的な取り組みを助けるものであり、いかなる形においても、教員の評価・査定の資料とするものではない。
- 2) 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- 3) 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- 4) 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- 5) 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

② 実施概要

実施期間：2023年7月7日（金）～7月31日（月）

実施対象：原則としてすべての前期少人数科目

（少人数科目とは、原則として履修者が25名以下の科目をいう。ただし授業形態や、学科・センターの指定により、対象科目を増減する場合があります。）

調査方式：CampusSquare（Web） 自由記述欄あり（p.3 参照）

※学部・大学院統一フォーム

調査所要時間：約10分

③ 実施方法

- 1) 授業終了の10分前を目安に、履修学生にアンケート回答時間を設ける。回答は原則として授業時間内に行う。
- 2) 授業担当教員は、学生に対し実施目的をよく読み、回答を行うように指示する。
- 3) 回答が完了しない学生が生じた場合は、実施期間中の任意の時間に、回答を行うように指示する。

④ 設問の内容

設問と回答選択肢は以下の通り。

- Q1 (大学院科目対象外) あなたは授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。
I. 週2時間以上 II. 週1~2時間 III. 週30分~1時間 IV. 週0分~30分 V. 全くしていない
- Q2 この授業の進度は適切でしたか。
I. 速すぎる II. やや速い III. ちょうどよい IV. やや遅い V. 遅すぎる
- Q3 この授業の難易度は適切でしたか。
I. 難しすぎる II. やや難しい III. ちょうどよい IV. やや易しい V. 易しすぎる
- Q4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。
I. 多すぎる II. やや多い III. ちょうどよい IV. やや少ない V. 少なすぎる
- Q5 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q6 教員の説明はわかりやすかった。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q7 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q8 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q9 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q10 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない
- Q11 この授業の学びの環境(教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料)は適切だった。
I. あてはまる II. どちらかと言えばあてはまる III. どちらとも言えない
IV. どちらかと言えばあてはまらない V. あてはまらない

- Q12 この授業の内容はシラバスに沿っていた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q17 この授業を履修したことに満足している。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q18 この授業について、良かった点を、自由に記述してください。(自由記述)
- Q19 この授業をよりよくするためにアイデアがあれば、自由に記述してください。(自由記述)
- Q20 この授業を受講して、あなた自身が学んだこと、反省していることなどを、自由に記述してください。(自由記述)
- Q21 (教員より指示があった場合のみ回答) ※教員個別設定質問 (自由記述)
- Q22 この授業を評価するにあたって、このアンケートの質問項目は十分かつ適切だ。
Ⅰ. はい Ⅱ. いいえ
- Q23 (Q22で「いいえ」と答えた人のみ回答) 欠けている項目、不適切な項目などを、具体的に記述してください。(自由記述)

⑤ 実施科目数

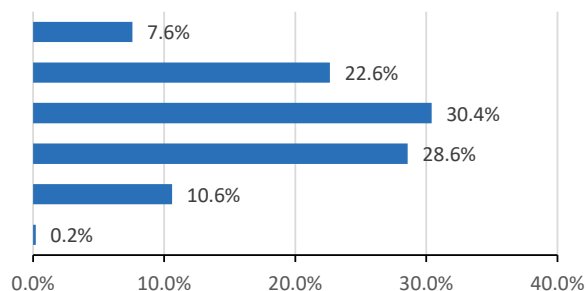
370 科目 (学部 : 356、大学院 : 14)

2. 2023年度前期「授業改善のための学生アンケート」の集計結果

① 学部

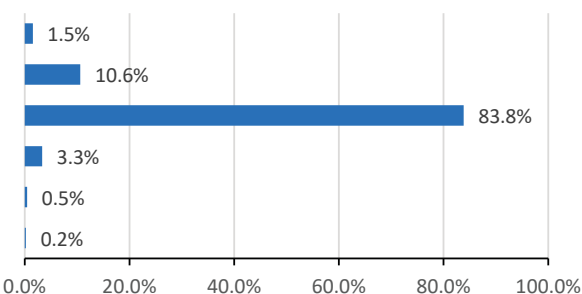
Q1 (大学院科目対象外) 授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。

No.	Category	度数	%
1	週2時間以上	229	7.6%
2	週1～2時間	684	22.6%
3	週30分～1時間	918	30.4%
4	週0分～30分	863	28.6%
5	全くしていない	320	10.6%
6	非該当	6	0.2%
	合計	3,020	



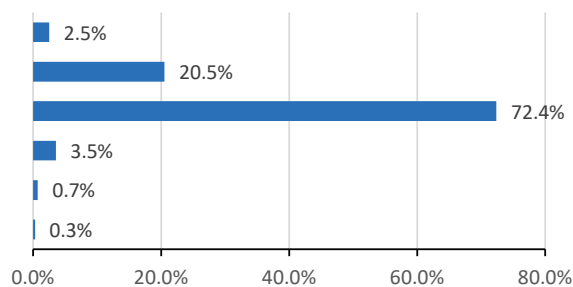
Q2 この授業の進度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	速すぎる	46	1.5%
2	やや速い	321	10.6%
3	ちょうどよい	2,532	83.8%
4	やや速い遅い	100	3.3%
5	遅すぎる	14	0.5%
6	非該当	7	0.2%
	合計	3,020	



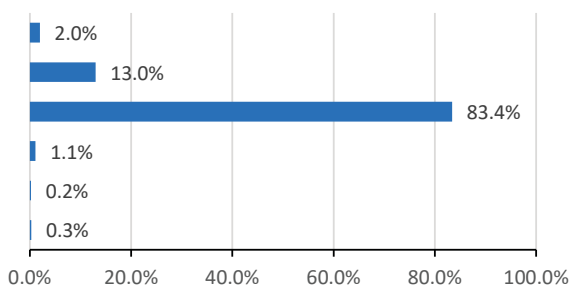
Q3 この授業の難易度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	難しすぎる	76	2.5%
2	やや難しい	620	20.5%
3	ちょうどよい	2,186	72.4%
4	やや易しい	107	3.5%
5	易しすぎる	22	0.7%
6	非該当	9	0.3%
	合計	3,020	



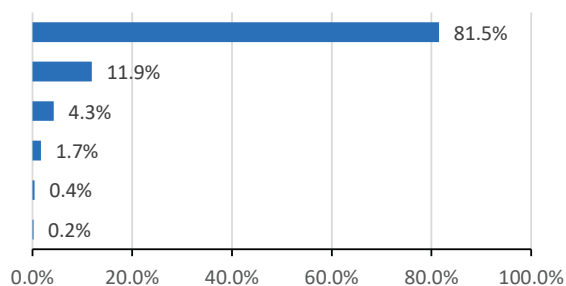
Q4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	多すぎる	59	2.0%
2	やや多い	392	13.0%
3	ちょうどよい	2,519	83.4%
4	やや多い少ない	34	1.1%
5	少なすぎる	7	0.2%
6	非該当	9	0.3%
	合計	3,020	



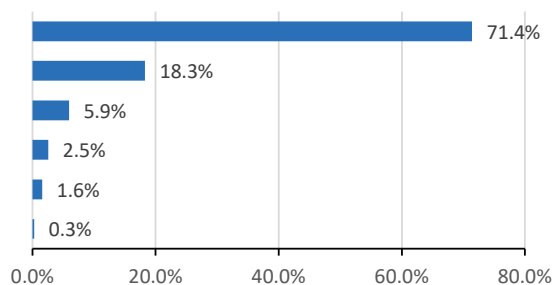
Q5 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,462	81.5%
2	どちらかと言えばあてはまる	359	11.9%
3	どちらとも言えない	129	4.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	51	1.7%
5	あてはまらない	13	0.4%
6	非該当	6	0.2%
	合計	3,020	



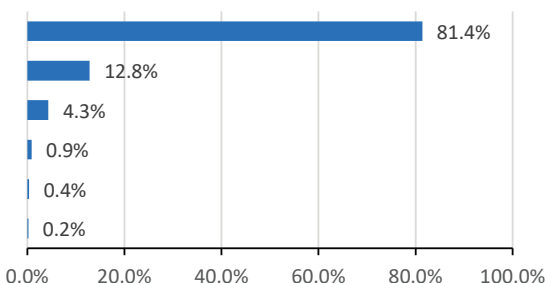
Q6 教員の説明はわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,157	71.4%
2	どちらかと言えばあてはまる	552	18.3%
3	どちらとも言えない	179	5.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	77	2.5%
5	あてはまらない	47	1.6%
6	非該当	8	0.3%
	合計	3,020	



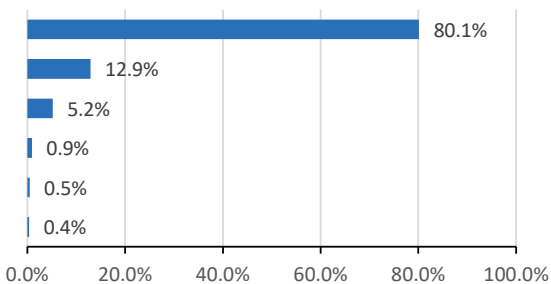
Q7 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,458	81.4%
2	どちらかと言えばあてはまる	388	12.8%
3	どちらとも言えない	131	4.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	26	0.9%
5	あてはまらない	11	0.4%
6	非該当	6	0.2%
	合計	3,020	



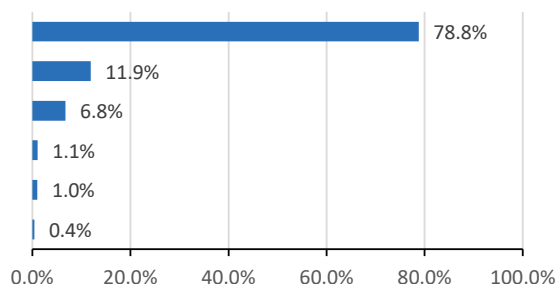
Q8 教科書や配布資料など、教材は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,420	80.1%
2	どちらかと言えばあてはまる	390	12.9%
3	どちらとも言えない	157	5.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	28	0.9%
5	あてはまらない	14	0.5%
6	非該当	11	0.4%
	合計	3,020	



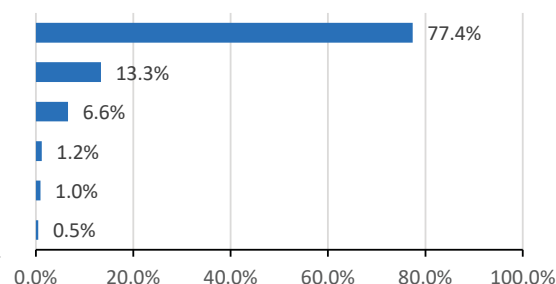
Q 9 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,380	78.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	360	11.9%
3	どちらとも言えない	204	6.8%
4	どちらかと言えばあてはまらない	33	1.1%
5	あてはまらない	31	1.0%
6	非該当	12	0.4%
	合計	3,020	



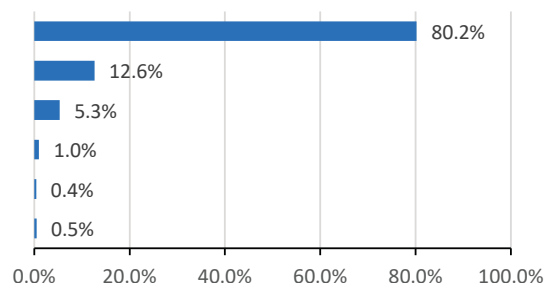
Q 10 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,338	77.4%
2	どちらかと言えばあてはまる	403	13.3%
3	どちらとも言えない	199	6.6%
4	どちらかと言えばあてはまらない	36	1.2%
5	あてはまらない	29	1.0%
6	非該当	15	0.5%
	合計	3,020	



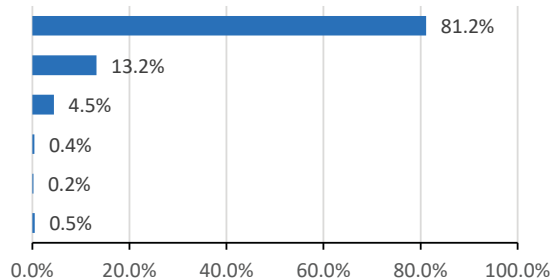
Q 11 この授業の学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,423	80.2%
2	どちらかと言えばあてはまる	381	12.6%
3	どちらとも言えない	160	5.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	30	1.0%
5	あてはまらない	12	0.4%
6	非該当	14	0.5%
	合計	3,020	



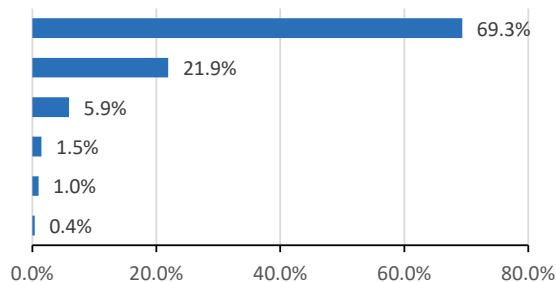
Q 12 この授業の内容はシラバスに沿っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,451	81.2%
2	どちらかと言えばあてはまる	399	13.2%
3	どちらとも言えない	135	4.5%
4	どちらかと言えばあてはまらない	13	0.4%
5	あてはまらない	7	0.2%
6	非該当	15	0.5%
	合計	3,020	



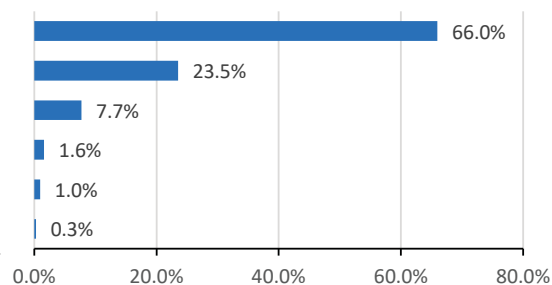
Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,094	69.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	662	21.9%
3	どちらとも言えない	179	5.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	44	1.5%
5	あてはまらない	30	1.0%
6	非該当	11	0.4%
	合計	3,020	



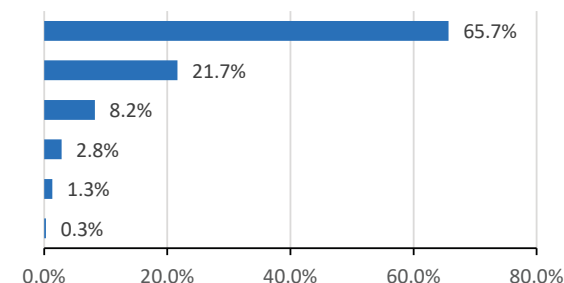
Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,992	66.0%
2	どちらかと言えばあてはまる	710	23.5%
3	どちらとも言えない	233	7.7%
4	どちらかと言えばあてはまらない	48	1.6%
5	あてはまらない	29	1.0%
6	非該当	8	0.3%
	合計	3,020	



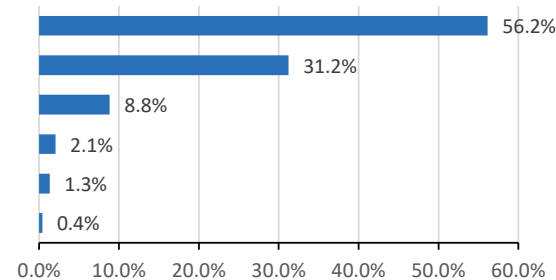
Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,984	65.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	654	21.7%
3	どちらとも言えない	248	8.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	85	2.8%
5	あてはまらない	40	1.3%
6	非該当	9	0.3%
	合計	3,020	



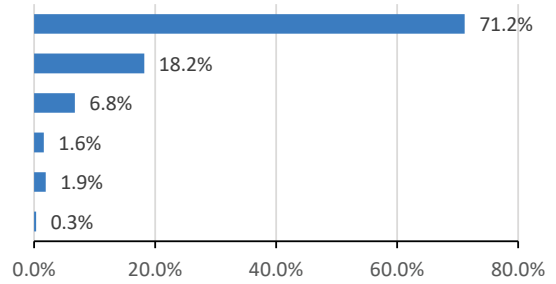
Q16 この授業の内容を十分に習得できた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,696	56.2%
2	どちらかと言えばあてはまる	943	31.2%
3	どちらとも言えない	267	8.8%
4	どちらかと言えばあてはまらない	62	2.1%
5	あてはまらない	40	1.3%
6	非該当	12	0.4%
	合計	3,020	



Q17 この授業を履修したことに満足している。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	2,149	71.2%
2	どちらかと言えばあてはまる	550	18.2%
3	どちらとも言えない	204	6.8%
4	どちらかと言えばあてはまらない	49	1.6%
5	あてはまらない	58	1.9%
6	非該当	10	0.3%
	合計	3,020	



2. 2023年度前期「授業改善のための学生アンケート」の集計結果

②大学院

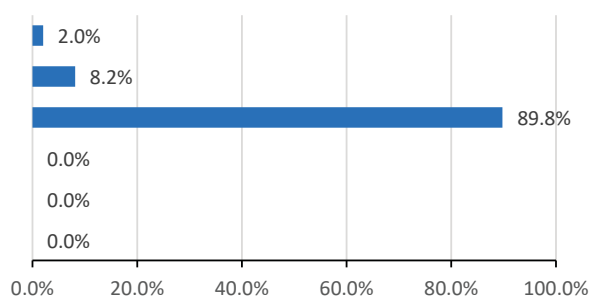
Q1 (大学院科目対象外) 授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。

No.	Category	度数	%
1	週2時間以上	0	
2	週1～2時間	0	
3	週30分～1時間	0	
4	週0分～30分	0	
5	全くしていない	0	
6	非該当	0	
	合計	0	

大学院科目対象外

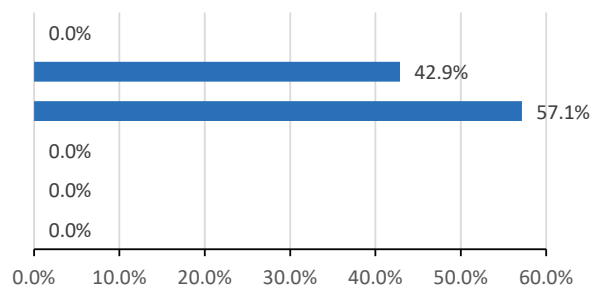
Q2 この授業の進度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	速すぎる	1	2.0%
2	やや速い	4	8.2%
3	ちょうどよい	44	89.8%
4	やや速い遅い	0	0.0%
5	遅すぎる	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	49	



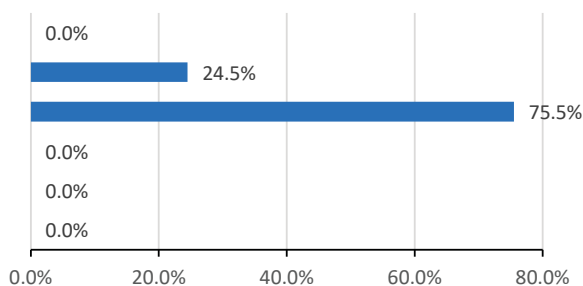
Q3 この授業の難易度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	難しすぎる	0	0.0%
2	やや難しい	21	42.9%
3	ちょうどよい	28	57.1%
4	やや易しい	0	0.0%
5	易しすぎる	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	49	



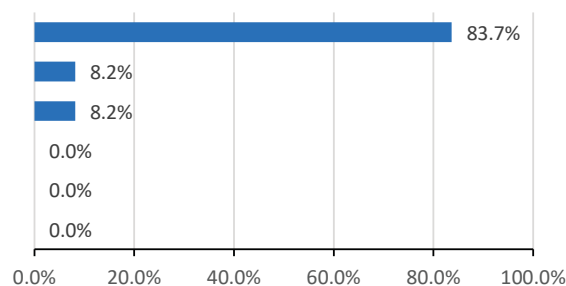
Q4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	多すぎる	0	0.0%
2	やや多い	12	24.5%
3	ちょうどよい	37	75.5%
4	やや多い少ない	0	0.0%
5	少なすぎる	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	49	



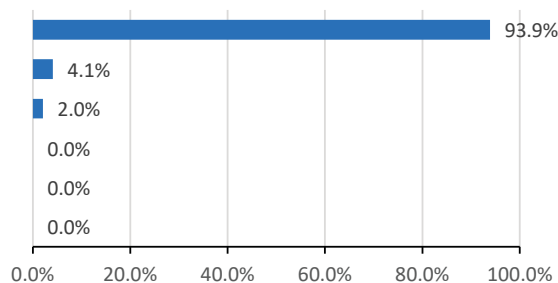
Q5 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	41	83.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	4	8.2%
3	どちらとも言えない	4	8.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	49	



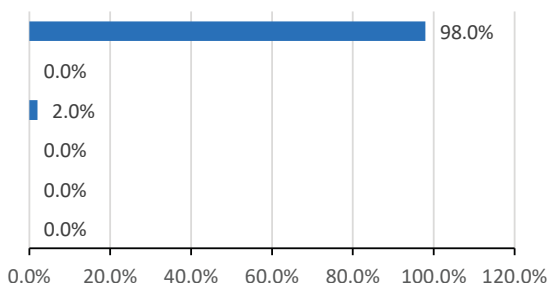
Q6 教員の説明はわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	46	93.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	2	4.1%
3	どちらとも言えない	1	2.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	49	



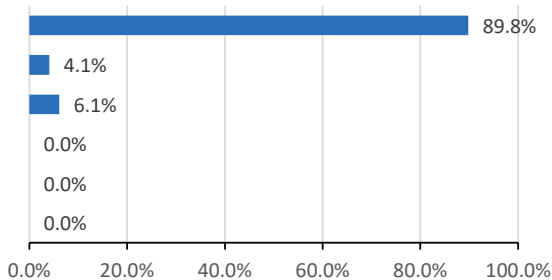
Q7 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	48	98.0%
2	どちらかと言えばあてはまる	0	0.0%
3	どちらとも言えない	1	2.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	49	



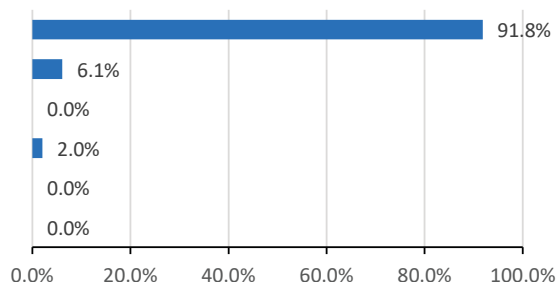
Q8 教科書や配布資料など、教材は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	44	89.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	2	4.1%
3	どちらとも言えない	3	6.1%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	49	



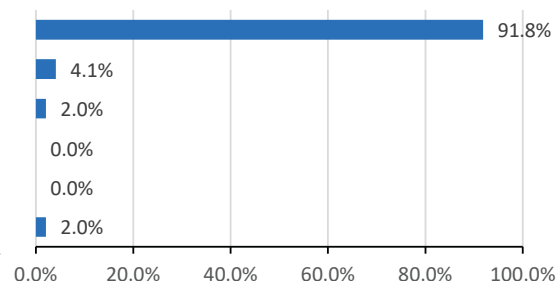
Q 9 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	45	91.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	3	6.1%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	2.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	49	



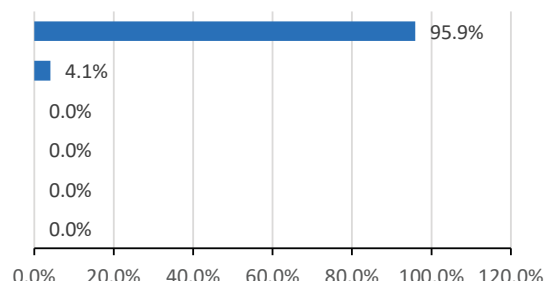
Q 10 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	45	91.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	2	4.1%
3	どちらとも言えない	1	2.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	1	2.0%
	合計	49	



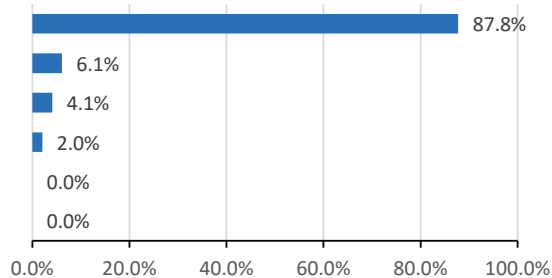
Q 11 この授業の学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	47	95.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	2	4.1%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	49	



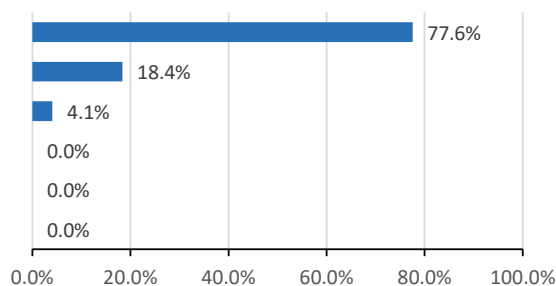
Q 12 この授業の内容はシラバスに沿っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	43	87.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	3	6.1%
3	どちらとも言えない	2	4.1%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	2.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	49	



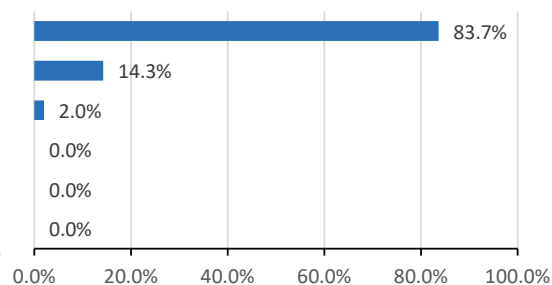
Q 13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	38	77.6%
2	どちらかと言えばあてはまる	9	18.4%
3	どちらとも言えない	2	4.1%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	49	



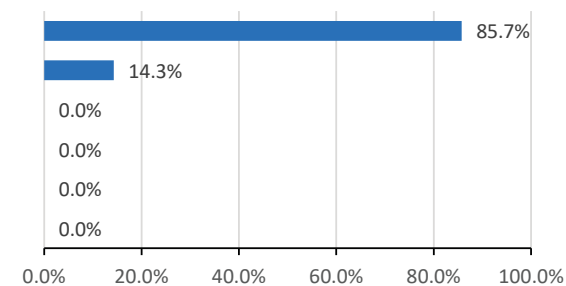
Q 14 この授業に主体的に取り組むことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	41	83.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	7	14.3%
3	どちらとも言えない	1	2.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	49	



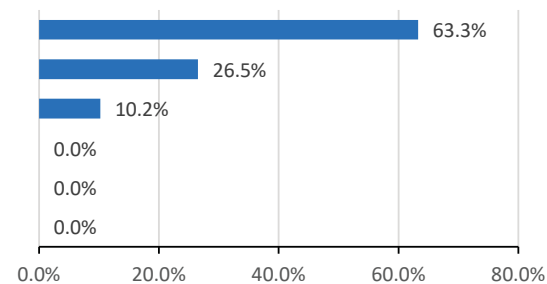
Q 15 この授業の内容に興味を持つことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	42	85.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	7	14.3%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	49	



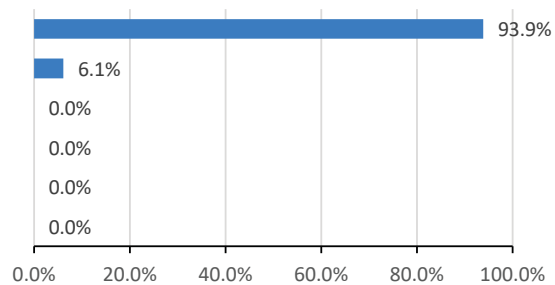
Q 16 この授業の内容を十分に習得できた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	31	63.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	13	26.5%
3	どちらとも言えない	5	10.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	49	



Q17 この授業を履修したことに満足している。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	46	93.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	3	6.1%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	49	



3. 2023 年度前期「授業改善のための学生アンケート」みなさんの声に応じて

学生の皆さんが回答してくれたアンケート結果は、個人が特定されないように集計された後、自由記述も含めて、担当教員へすべて確実に届いています。この章では、アンケートを通じて届けられたみなさんの声に応じて、授業担当教員、FD・SD 推進委員会からのメッセージをお届けいたします。

① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ

社会福祉と私たち	松本 方哉	2023/水3/前期
<p>すべての結果にしっかりとコメントさせていただきます。</p> <p>大変多くの皆さんが、今回の講義を私と一緒に仮想空間の中で、一生懸命に、また、知的好奇心を膨らませて学ぶことができたと言ってくださり、私としても心強い限りです。対面を超える力を持ったのは、実は、一人一人と講義の中でキャッチボールをさせていただいたからで、毎回、100人を超える学生さんの一人一人とやりとりするのは、対面の講義では絶対にできない手法でした。この講座が生み出した新手法です。皆さんの学びへの熱意が、講義の空間を広げる力になる、これを私に示していただいたのは私にとっても大いなる学びになりました。</p> <p>今後とも切磋琢磨して学びの世界をご一緒に豊かにして行こうではありませんか。</p>		

日本語教育実習	栃木 亜寿香	2023/火1/前期
<p>【全体について】履修者全体にアンケートの周知が不十分であった為、今後授業内で時間を設けて実施したい。</p>		

わらべうた研究

高橋 佳奈枝

2023/水 5/前期

Q18 について

学生たちに恵まれたことを感謝しています。学生同士が「わらべうた」をあそび学ぶなかで
どんどん仲間関係ができていく様子をうれしく見ていました。これこそが「ひと」を学び
「ひと」が好きになるわらべうたの力だと思います。

伝承のなかで大切に贈り伝えられてきたことを、このように実践のなかで感じることができ
る授業になったのは、今回の学生たちの力でもあり、それはひとりひとりの今後の生きる力
になると信じています。

「また会いたい。」私もそう思い寂しさを感じるくらいです。

楽しい時間をありがとうございました。

Q19 について

人数にもよりますが、もう少し広い教室でも良かったかと思いつつも、このくらいの空間の
方が、お互いの距離感も良かったのではとも思います。

感動したのは、毎回机を後ろに下げたり、元に戻す作業を学生自ら動き用意してくれたこと
です。こうして皆で作り上げていく授業になっていったようにも思います。

また、プロジェクターの使用では、子どもたちのあそぶ姿を観てもらうことも出来たのでそ
の点では使用可能な場所の計画も立てながら相談し考えていきたいと思いました。

15回の授業ではまだまだ伝えられないことも多く深いわらべうたであると感じてもらえ
たこの「通年希望」という言葉はとてうれしかったです。

Q20 について

「わらべうた」の深い意味を知り、それぞれが自分の中の課題と向き合い「感じ取ってくれ
た」ことが嬉しかったです。「知恵」とは自分で見つけ「もの」にすること。

手渡せたものは、学生ひとりひとり違うと思います。ふりかえってみて、皆さんの中に沢山
残っているといいなと願います。

② FD・SD 推進委員会からのメッセージ

「授業改善のための学生アンケート」は、本学の授業内容・方法などの改善を継続して行っていくために、学生の皆さんの協力を得て、2010 年度から継続して実施されています。授業を担当する教員は、アンケートの結果を受けて、次学期・次年度の各科目各授業の構成や流れ、課題内容や頻度、分量等について、あらためて検討し直します。半期にわたってご一緒した受講生の皆さんからの声は、教員にとってたいへん貴重で、より充実した学びの提供のための大きなモチベーションとなっています。

2020 年以降のコロナ禍によりアンケートがオンライン実施に移行した後、アンケートの回収率・回答率は 3 割程度で推移していました。しかし今回（2023 年度前期）、回答率が 10 ポイント以上向上しました。この間、回答へのお願い・呼びかけなどを地道に行ってきた成果が表れたようにも思われ、たいへん嬉しく思っています。担当教員の方々や学生の皆さんのご協力に、あらためて感謝したいと思います。

教員にとっても学生のみなさんにとっても、このアンケートがよりよい学びにつながっていることが実感できるよう、今後も内容改善を続けていきます。

「授業改善のための学生アンケート」2023年度前期 顕彰授業について

2023年10月4日

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は2010年度より実施し、2017年度からは集計結果を活用した顕彰制度を導入しています。アンケートの結果は個々の授業改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有しています。なお2022年度より2年間で全科目のアンケートを実施することとし、本年度は履修者数が概ね25名以下の授業についてアンケートを実施いたしました。

2023年度前期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業における工夫等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

2023年度前期

「わらべうた研究」高橋 佳奈枝 先生（人間総合学部児童文化学科非常勤講師）

（前期 水曜日 5限）

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的（実施要領より抜粋）

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の7項目（項目毎の平均点の合計/35点満点）とする。
 - Q6 教員の説明はわかりやすかった。
 - Q8 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
 - Q9 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
 - Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できた。
 - Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
 - Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
 - Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
- ④ 顕彰対象は当該年度のアンケート実施対象授業のうち、6名以上の回答が得られたものとする。
- ⑤ 顕彰対象は各学期第1位の授業とし、その授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑥ 表彰授業・担当教員名は、大学Webサイトにて公表する。

[実施主体]

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

以上

「授業改善のための学生アンケート」2023 年度前期 顕彰授業における工夫

2023 年度前期「授業改善のための学生アンケート」の顕彰授業における工夫をご紹介します。

【参考】 顕彰の対象となったアンケート項目は以下の7項目です。

- Q6 教員の説明はわかりやすかった。
- Q8 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
- Q9 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
- Q13 この授業の目的や到達目標を十分に理解できた。
- Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
- Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
- Q16 この授業の内容を十分に習得できた。

< 顕彰授業 >

「わらべうた研究」 高橋 佳奈枝 先生（人間総合学部児童文化学科非常勤講師）

2023 水5 前期

「わらべうた」が手あそびのように扱われ、とても残念に思い、先人たちは何を求めてこの「わらべうた」を口承伝承してきたかについて学んでほしいと考えてきました。

現場にいる保育士でさえ知らない「本当」を少しは手渡せたのではないかとうれしく思っています。

これは、近い将来おかあさんになって、出会うかもしれないひとたちへの贈り物だとさえ思っています。そしてそれは、生命の不思議と感動やワクワク感の中で、こどもを知ることでもあり、「ひと」を実体験の中で学ぶものです。

折しも、4 月からコロナが5 類扱いとなり、おそるおそるながら対面授業となりました。学生たちは、顔の見える・口元の見える「はなし」に耳を真剣に傾けてくれました。

「ひと」は顔を見て目を見て話すもの。保育園現場でもこのマスクの顔が問題になっており、言葉の獲得が遅れたり、対面することの重要性について危機感もたれてきているくらいですので、やはりしっかり「ひと」に向き合う授業がしたかった。もちろん換気や手指の消毒など配慮しながら行うことにしました。

私の授業はほんの15 回でしたが、それでも回を重ねる中で学生同士の間関係が育まれていくのが目に見えました。数回目かの授業の終わりに学生同士で情報交換をしたり情報共有したりする動きが自然と出てきたときに、これがわらべうたがわらべうたとして存在してきた証なのだと感じうれしく思いました。学生たちが楽しいと感じたのはこの仲間関係ができたことが大きいと思います。

授業では、パワーポイントも利用しながら、実際の子ども集団のあそびの様子やその分析

などを話題にしながら、「ひと」を学ぶことを主にして考えるようにしました。授業後のアクションペーパーはそのために利用することを伝え、あそびの中で何を感じたか・どのように分析するかを記入してもらうようにし、その都度評価記録し、進めました。また返却時にはなるべくコメントをそれぞれに記入しそれぞれの課題について深まるよう返す努力をしました。

あそびとは能動的に動くこと。これから社会人になることも見据え、与えられたことだけで、面白さは得られないこと・生活の中には勘やセンス磨きが大切なこと。それらが自分を楽しくすることであると気が付いた学生から楽しくなっていったと思います。

今回は学生たちに恵まれたことや、そしてその後ろにいるご両親の存在・会話の中で感じたことが大きな理由だといえます。

こうして考えると家族・親子、そんな関係のなかで育まれ続けていく伝承の一つに少しはなれたのではないかと感じています。

